新興市場銘柄

１．評価対象企業（29 社）

トライアルホールディングス、ソラコム、タイミー（新規）、Ｈｅａｒｔｓｅｅｄ（新規）、Ai ロボティクス（新規）、ユカリア（新規）、Ｓｙｎｓｐｅｃｔｉｖｅ（新規）、クラシル（新規）、ＴＥＮＴＩＡＬ（新規）、トヨコー（新規）、ジーエヌアイグループ（新規）、ＴＫＰ（注）、ＧＡ ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓ、ＦＦＲＩセキュリティ（再開）、網屋（新規）、エクサウィザーズ（再開）、セーフィー（再開）、Ｆｉｎａｔｅｘｔホールディングス（新規）、スマレジ、ｅＷｅＬＬ、カバー（再開）、ＡｅｒｏＥｄｇｅ（新規）、ＢｕｙＳｅｌｌ Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓ、シーユーシー、ＧＥＮＤＡ、ライズ・コンサルティング・グループ（新規）、ｉｓｐａｃｅ、アルファポリス、ＩＮＴＬＯＯＰ（再開）

（証券コード協議会銘柄コード順）

（注）ティーケーピーが商号を変更（2026 年 6 月）

２．対象企業の選定方法および評価方法

(1) 対象企業の選定方法

本年度における新興市場銘柄の評価対象企業は、グロース、ネクスト、Q-Board およびアンビシャスの 4 つの市場に上場している企業（注 1）の中で、時価総額が上位（注 2）であって、かつ、その企業を調査対象としているアナリストの数（注 3）が一定数以上の 29 社（昨年度 26 社）とした。なお、29 社のうち、継続評価企業が 11 社、新規評価企業が 13 社、再評価企業（2 年以上前に評価対象としたことがある企業）が 5 社となっている。

(注 1) 本年 3 月末時点で、上場後 1 年未満の企業は除外した。
(注 2) 昨年 11 月末時点の時価総額を基準とした。
(注 3) 本年 1 月に当協会が証券会社等に対して、新興市場銘柄をカバーするアナリスト数を照会して得られた数。

(2) 評価基準の構成および配点

評価分野	下記本文中の略称	評価項目(注)数	配点
①経営陣の IR 姿勢、IR 部門の機能、IR の基本スタンス	**経営陣の IR 姿勢等**	4	35
②説明会、インタビュー、説明資料等における開示	**説明会等**	3	25
③フェア･ディスクロージャー	**フェア･ディスクロージャー**	2	15
④ESG に関連する情報の開示	**ESG 関連**	3	20
⑤各業種の状況に即した自主的な情報開示	**自主的情報開示**	1	5
計		13	100

（注）具体的な評価項目の内容および配点は後掲。

(3) 評価実施アナリストは 44 名（所属先 26 社）である。（氏名等は後掲）

３．評価結果

(1) **総括**（「ディスクロージャー評価比較総括表」は後掲）

① 本年度は、新規評価（13 社）および再評価（5 社）の企業もあるため、昨年度と同列には比較できないが、本年度の総合評価平均点は 71.1 点（昨年度 65.8 点）、総合評価点の標準偏差は 6.6 点（昨年度 7.6 点）であった。

② 総合評価点については、昨年度は 80 点台以上がなかったが、本年度は 80 点台が 2 社、70 点台が 10 社（昨年度 9 社）、60 点台が 15 社（昨年度 11 社）、50 点台が 2 社（昨年度 6 社）となった。

③ 5 つの評価分野の平均得点率（評価対象企業の平均点／配点〈以下省略〉）を見ると、**経営陣の IR 姿勢等**が 77%（昨年度 70%）、**説明会等**が 70%（昨年度 66%）、**フェア･ディスクロージャー**が 74%（昨年度 71%）、**ESG 関連**が 61%（昨年度 55%）、**自主的情報開示**が 66%（昨年度 62%）となった。

④ 全 13 項目の平均得点率を見ると、最高で 79%（2 項目）、最低で 59%となった。最低となった項目（**ESG 関連**の中の 1 項目）は次のとおりであった。

・「経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか」（平均得点率 59%）（得点率（評価点／配点〈以下省略〉）：40%台 6 社・50%台 9 社・60%台 10 社・70%台 4 社）

⑤ **ESG 関連**の 3 項目（上記④および（a）（b））それぞれの平均得点率を見ると、いずれも 60%台前半以下となり、低水準であった。

(a) 「資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか」
（平均得点率 63%）（得点率：40%台 3 社・50%台 8 社・60%台 12 社・70%台 5 社・80%台 1 社）

(b) 「非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか」
（平均得点率 62%）（得点率：40%台 3 社・50%台 7 社・60%台 15 社・70%台 3 社・80%台 1 社）

(2) 優良企業（上位３企業）の評価概要

第 1 位 BuySell Technologies（ディスクロージャー優良企業〔2 回連続 3 回目〕、総合評価点 83.2 点〔昨年度比＋6.1 点〕）

① 同社（事業内容：着物・ブランド品等リユース事業を中心に展開。市場：グロース（2019 年 12 月マザーズ上場）、継続評価企業）は、**経営陣の IR 姿勢等**（得点率〈以下省略〉89%）、**説明会等**（83%）、**ESG 関連**（76%）が第 1 位、**フェア･ディスクロージャー**が第 3 位（86%）、**自主的情報開示**が同得点第 12 位（70%）となった。昨年度に比べて、5 分野全てにおいて得点率が改善した。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」が最も高い評価となった。これに関連して、ネガティブな情報についても適切な説明を行う姿勢に加え、KPI や各セグメントの状況を四半期ごとに詳細に開示しており、透明性の高い情報開示を実践している点を評価する声が寄せられた。「IR 部門の機能」は第 2 位となった。これに関連して、IR 部門が CFO をはじめとする経営陣と密接に連携し、十分な情報共有のもとで経営陣の代弁者として機能している点を評価する声があった。「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も第 2 位となった。これに関連して、市場参加者が業績等の動向をより正確に把握できるよう、開示項目を適宜調整しながら情報開示を行っている点を評価する声が寄せられた。「経営陣の IR 姿勢」は第 3 位となった。これに関連して、社長や CFO が IR ミーティングや決算説明会において、事業の方向性、成長戦略、財務状況を自ら丁寧かつ詳細に説明し、投資家との認識共有に努めている点を評価する声があった。また、経営陣が先頭に立って IR 活動を推進するとともに、マネジメント層も積極的に投資家対応を行っている点を評価する声が寄せられた。

③ **説明会等**においては、「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」が同得点第 1 位となった。これに関連して、財務分析に必要なデータが十分記載されている点を評価する声があった。「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること。また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、今期業績計画について十分に説明が行われている点を評価する声が寄せられた。「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」も同得点第 2 位となった。これらに関連して、中長期の見通しや戦略について説明が行われており、市場開拓が必要な事業環境の中でも成長見通しに関する説明を尽くし、詳細開示に限りがある中

で積極的な情報開示に努めている点を評価する声が寄せられた。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が第 2 位となった。これに関連して、開示は迅速に行われており、開示可否のラインについてもしっかり管理されるなど、不公平や混乱が生じないよう十分な注意が払われている点を評価する声があった。「ウェブサイトにおける情報提供」は第 4 位となった。これに関連して、説明会スクリプトに至るまで英訳されるなど、ウェブサイトを通じた情報提供が充実している点を評価する声が寄せられた。

⑤　**ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等の開示」が第 2 位となった。これに関連して、中期経営計画等を通じて、資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標について十分に説明している点を評価する声があった。「経営機構、経営資源および内部統制について」も第 2 位となった。これらに関連して、決算説明資料やコーポレートガバナンス報告書、内部統制報告書の提出等を通じて、経営機構や内部統制に関する必要な説明が行われている点を評価する声が寄せられた。また、説明会資料において、社外取締役の役割などに関する開示が十分に行われている点を評価する声があった。「ESG に関する情報の開示」は同得点第 2 位となった。これに関連して、決算説明資料やホームページ等を通じて、人事制度を通じた組織基盤の強化などの人的資本に関する取り組みや、コンプライアンス・ガバナンスに関する方針、サステナビリティの取り組みについて開示が行われている点を評価する声が寄せられた。

⑥　**自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は同得点第 12 位となった。これに関連して、月次開示を行うとともに、物流センターの見学を実施するなど、決算説明会以外の情報開示や投資家向け施策に取り組んでいる点を評価する声があった。

第 2 位　Finatext ホールディングス（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 81.0 点）

①　同社（事業内容：フィンテックシフト事業、データ AI 事業、 金融インフラストラクチャ事業を中心に展開。市場：グロース（2021 年 12 月マザーズ上場）、新規評価企業）は、**説明会等**が同得点第 1 位（83%）、**ESG 関連**が第 2 位（74%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 3 位（85%）、**フェア･ディスクロージャー**が第 4 位（82%）、**自主的情報開示**が同得点第 12 位（70%）となった。

②　**経営陣の IR 姿勢等**においては、「経営陣の IR 姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、社長自らが説明会や IR の場に出てしっかりと説明を行うとともに、事業進捗や見通しについて熱意をもって説明している点を評価する声が寄せられた。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は同得点第 2 位となった。これに関連して、都合の悪い情報であってもフェアに情報開示を行うとともに、事業進捗が低調な局面においてもその背景や今後の見通し・戦略、方針について明確かつ適切に説明している点を評価する声があった。「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」が同得点第 3 位となった。これに関連して、情報発信を逐一行うとともに、適切な情報開示を継続し、積極的な情報公開に取り組んでいる点を評価する声が寄せられた。

③　**説明会等**においては、「今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていること。また、四半期の情報開示が経営実態に即して十分に行われていること」が最も高い評価となった。これに関連して、今期業績計画について適切な説明が行われているほか、通期計画に対する進捗や上振れ・下振れ要因についても丁寧に説明している点を評価する声があった。「説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示」は同得点第 1 位となった。これに関連して、受注状況などの開示が豊富で、収益および財務分析に必要なデータが十分に開示されている点を評価する声が寄せられた。また、分析に用いるデータが豊富であり、不足する情報については次回以降の開示で追加対応している点を評価する声があった。「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」は第 5 位となった。これに関連して、中長期の成長目線を共有するとともに、顧客数見通しや市場見通しを踏まえて財務目標を示している点を評価する声が寄せられた。

④　**フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が同得点第 4 位となった。これに関連して、投資家にとって重要な事項について、迅速かつ公平な情報開示を行っている点を評価する声があった。「ウェブサイトにおける情報提供」は同得点第 5 位となった。これに関連して、ウェブサイトに加え SNS も活用しながらタイムリーな情報提供を行うとともに、英文による情報提供を実施している点を評価する声が寄せられた。

⑤ **ESG 関連**においては、「経営機構、経営資源および内部統制について」が最も高い評価となった。これに関連して、経営機構、経営資源および内部統制について十分に説明されている点を評価する声があった。「ESG に関する情報の開示」は同得点第 2 位となった。これに関連して、決算説明資料等における非財務情報の充実を望む声があった。「資本政策、株主還元策等の開示」は同得点第 5 位であった。これに関連して、資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について、説明資料等を通じて十分に説明されている点を評価する声が寄せられた。

⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は、同得点第 12 位であった。

第 3 位　Heartseed（ディスクロージャー優良企業〔初受賞〕、総合評価点 78.2 点）

① 同社（事業内容：iPS 細胞を用いた心筋再生医療事業を中心に展開。市場：グロース（2024 年 7 月グロース上場）、新規評価企業）は、**フェア･ディスクロージャー**が同得点第 1 位（87%）、**経営陣の IR 姿勢等**が第 2 位（86%）、ESG **関連**が第 5 位（69%）、**自主的情報開示**が同得点第 8 位（74%）、**説明会等**が第 13 位（71%）となった。

② **経営陣の IR 姿勢等**においては、「IR 部門の機能」が最も高い評価となった。これに関連して、小規模会社でトップとの距離が近く、IR スペシャリストが丁寧かつ客観的な説明を行うとともに、投資家が確認したい内容を踏まえた開示資料を提供している点を評価する声が寄せられた。「フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていること」も最も高い評価となった。これに関連して、データの発表など積極的な情報開示を行うとともに、不慮のイベント発生時には連日・複数回にわたり IR リリースを実施するなど、適切な情報開示に努めている点を評価する声が寄せられた。「会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていること」は同得点第 8 位となった。これに関連して、リードパイプラインが返還された際に、その理由や今後の開発計画の考え方を説明するなど、自社の状況を適切に開示している点を評価する声があった。「経営陣の IR 姿勢」は同得点第 9 位であった。これに関連して、社長自らミーティングに参加し、医師としての観点も踏まえた技術的な優位性を説明するとともに、事業進捗や見通しについて納得感の高い説明を行っている点を評価する声があった。

③ **説明会等**においては、「中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていること」が同得点第 9 位となった。これに関連して、中・長期の成長見通しについて納得感のある説明が行われており、バイオテック企業として平均的な情報開示がなされているとの声があった。なお、中長期の成長性に関するリスクの記載や、開示資料における説明内容の充実を望む声もあった。

④ **フェア・ディスクロージャー**においては、「フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢」が最も高い評価となった。これに関連して、投資家にとって重要な事項について迅速な情報開示を行うとともに、リスク条項についても十分な記載がなされている点を評価する声が寄せられた。「ウェブサイトにおける情報提供」は同得点第 5 位となった。これに関連して、資料を英語でも準備しているほか、不定期に配信される社長メッセージが会社の状況を理解するうえで有意義な情報提供となっている点を評価する声があった。

⑤ **ESG 関連**においては、「資本政策、株主還元策等の開示」が最も高い評価となった。これに関連して、成長投資の必要性について説明が行われている点を評価する声が寄せられた。「経営機構、経営資源および内部統制について」は同得点第 9 位となった。これに関連して、小規模な組織であることから運営が属人的に見える面もあり、経営機構や内部統制に関する説明の充実を望む声があった。

⑥ **自主的情報開示**の「ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいること」は同得点第 8 位となった。これに関連して、セルサイド主催のスモールミィーテングにおいて、1on1 ミーティング以上に事業理解を深める機会を提供している点を評価する声が寄せられた。

上記の **BuySell Technologies、Finatext ホールディングス、Heartseed** の努力と姿勢は、ディスクロージャーのさらなる進展のために他の企業の模範となると認められるので、これら 3 社を本年度の新興市場銘柄における優良企業として選定した。

以　上

2026年度　ディスクロージャー評価比較総括表（新興市場銘柄）

（単位:点）

順位	評価項目 / 評価対象企業	総合評価（100点）	1．経営陣のＩＲ姿勢、ＩＲ部門の機能、ＩＲの基本スタンス 評価項目4（配点 35点）		2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 評価項目3（配点 25点）		3．フェア・ディスクロージャー 評価項目2（配点 15点）		4．ＥＳＧに関連する情報の開示 評価項目3（配点 20点）		5．各業種の状況に即した自主的な情報開示 評価項目1（配点 5点）		前回順位
			評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	評価点	順位	
1	7685　BuySell　Technologies	83.2	31.0	1	20.7	1	12.9	3	15.1	1	3.5	12	1
2	4419　Finatextホールディングス	81.0	29.8	3	20.7	1	12.3	4	14.7	2	3.5	12	－
3	219A　Heartseed	78.2	30.1	2	17.7	13	13.0	1	13.7	5	3.7	8	－
4	4431　スマレジ	76.6	28.0	7	19.4	5	11.8	6	13.6	6	3.8	5	4
5	215A　タイミー	76.3	28.2	6	19.5	4	11.7	8	13.8	4	3.1	19	－
6	290A　Synspective	75.9	28.6	5	19.4	5	11.6	9	12.3	14	4.0	1	－
7	4258　網屋	75.0	29.6	4	18.4	10	11.8	6	12.2	15	3.0	20	－
8	3479　TKP	74.7	27.9	8	18.9	9	11.2	11	12.7	9	4.0	1	3
9	341A　トヨコー	73.5	24.5	23	20.5	3	11.0	14	14.0	3	3.5	12	－
10	147A　ソラコム	73.0	26.7	15	19.3	8	10.8	16	12.6	12	3.6	11	13
11	9348　ispace	72.6	26.9	13	16.8	16	12.0	5	13.1	8	3.8	5	15
12	9556　INTLOOP	71.1	26.0	18	17.9	11	10.6	18	13.3	7	3.3	16	－
13	9166　GENDA	69.7	27.0	10	15.4	22	11.3	10	12.7	9	3.3	16	26
14	3491　GA　technologies	69.6	27.0	10	17.0	15	11.2	11	11.8	16	2.6	24	22
15	141A　トライアルホールディングス	69.4	26.4	17	17.8	12	10.3	20	11.1	19	3.8	5	2
15	5038　ｅＷｅＬＬ	69.4	25.6	20	19.4	5	10.8	16	11.1	19	2.5	26	6
17	299A　クラシル	68.2	26.5	16	16.8	16	11.1	13	11.0	21	2.8	23	－
17	9467　アルファポリス	68.2	26.8	14	17.6	14	10.2	22	10.6	22	3.0	20	20
19	247A　Ai ロボティクス	67.3	27.1	9	14.4	27	11.0	14	11.3	18	3.5	12	－
20	2160　ジーエヌアイグループ	66.9	27.0	10	14.7	24	13.0	1	9.9	27	2.3	27	－
21	7409　AeroEdge	65.5	26.0	18	15.7	18	10.0	24	10.1	26	3.7	8	－
22	4259　エクサウィザーズ	65.4	25.0	21	15.2	23	10.4	19	11.6	17	3.2	18	－
23	286A　ユカリア	64.9	24.1	26	14.7	24	9.7	25	12.7	9	3.7	8	－
24	5253　カバー	63.7	24.2	25	15.5	21	9.7	25	10.4	23	3.9	4	－
25	9168　ライズ・コンサルティング・グループ	63.3	23.0	27	15.7	18	9.0	27	12.6	12	3.0	20	－
26	325A　TENTIAL	62.8	25.0	21	15.6	20	10.2	22	9.4	29	2.6	24	－
27	4375　セーフィー	62.7	24.3	24	13.7	28	10.3	20	10.4	23	4.0	1	－
28	3692　FFRIセキュリティ	56.7	22.4	28	13.0	29	8.7	28	10.3	25	2.3	27	－
29	9158　シーユーシー	55.7	21.7	29	14.7	24	7.7	29	9.6	28	2.0	29	18
	評価対象企業評価平均点	71.14	26.98		17.52		11.08		12.24		3.32		

2026年度の具体的評価項目および配点（新興市場銘柄）

【評価期間：2025年7月～2026年6月】

1．経営陣のIR姿勢、IR部門の機能、IRの基本スタンス （３５点）	**配点**
(1)経営陣のIR姿勢	
・経営陣が、IR活動の重要性を認識し、ミーティング等を通じて自ら経営戦略を十分に説明していますか。 [1点～15点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**15**
(2)IR部門の機能	
・IR部門が、経営陣と情報を共有することにより、経営陣の代弁者として十分に機能していますか。 [1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(3)IRの基本スタンス	
①フェア・ディスクロージャー・ルールの趣旨を十分に理解し、情報開示を後退させることなく、より積極的に情報開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
②会社にとって都合の悪い情報、自社の弱点、低収益あるいは赤字の事業についても積極的に開示を行っていますか。 [1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
2．説明会、インタビュー、説明資料等における開示 （２５点）	**配点**
(1)決算説明会、インタビューにおける開示	
①今期業績計画について、根拠を示し整合性のある説明をしていますか。また、四半期の情報開示は経営実態に即して十分に行われていますか。[1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
②中・長期の成長見通しについて、具体的に根拠を示し整合性のある説明をしていますか。[1点～10点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)説明資料等（短信およびその付属資料を含む）における開示	
・収益および財務分析に必要なデータは十分に記載されていますか。 [1点～5点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
3．フェア・ディスクロージャー（１５点）	**配点**
(1)フェア・ディスクロージャーへの取組姿勢	
・投資家にとって重要と判断される事項（業績変動、合併・提携・事業買収、増資、事故・災害、リスク情報等）の開示は迅速に行われ、かつ不公平や混乱が生じないよう十分な注意を払っていますか。[1点～10点の整数で評価]【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**10**
(2)ウェブサイトにおける情報提供	
・ウェブサイトを利用して有用な情報提供（決算説明会の資料・質疑応答・動画配信、過去の長期財務データ）を行っていますか。また、英文による情報提供を行っていますか。[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
4．ESGに関連する情報の開示 （２０点）	**配点**
(1)資本政策、株主還元策等の開示	
・資本政策、株主還元策、キャッシュの使途、財務バランス、資金調達および目標とする経営指標等について十分に説明されていますか。[1点～8点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**8**
(2)経営機構、経営資源および内部統制について	
・経営機構（社外取締役の独立性等）、経営資源および内部統制について十分に説明されていますか。[1点～7点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**7**
(3)ESGに関する情報の開示	
・非財務情報（環境や社会、人的資本に関する情報を含む）の開示に取り組んでいますか[1点～5点の整数で評価] 【評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**
5．各業種の状況に即した自主的な情報開示（５点）	**配点**
・ウェブサイトでの開示や決算説明会以外の開示（工場・施設見学会の実施、主要事業に関する説明会の開催およびアニュアルレポートの作成など）に取り組んでいますか。（前年7月から本年6月までの間） [1点～5点の整数で評価] 【 評価企業の優れている点あるいは改善が望まれる点についてコメント欄に記入して下さい】	**5**

新興市場銘柄専門部会委員

部　会　長	古島　次郎	大和証券
部会長代理	渡辺　真理子	UBS 証券
	新井　勝己	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券
	岩本　誠一郎	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One
	添島　健史	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	高　　祥太郎	ｱﾓｰｳﾞｧ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	納　　博司	いちよし経済研究所
	東田　　曉	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
	宮崎　裕次	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ

評価実施アナリスト（44 名）

姉川　俊幸	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	関根　哲	大和証券
新井　勝己	ﾓﾙｶﾞﾝ・ｽﾀﾝﾚｰ MUFG 証券	添島　健史	三井住友ﾄﾗｽﾄ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
有沢　正一	岩井ｺｽﾓ証券	高　祥太郎	ｱﾓｰヴァ・ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
石田　優理子	みずほ証券	高梨　裕	SBI 岡三ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
井尻　雅大	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	得永　一樹	大和証券
入沢　健	立花証券	富田　展昭	極東証券経済研究所
岩本　誠一郎	ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ One	滑川　晃	ｼｭﾛｰﾀﾞｰ・ｲﾝﾍﾞｽﾄﾒﾝﾄ・ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
大山　光司	第一生命保険	納　博司	いちよし経済研究所
小澤　公樹	SBI 証券	野島　亮太	立花証券
小山　真里菜	大和証券	原田　大輔	QUICK
加納　輝一	三菱 UFJ 信託銀行	東田　曉	野村ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
鎌田　重俊	立花証券	藤根　靖晃	ﾃｨｰ・ｱｲ・ﾀﾞｳﾞﾘｭ
川崎　朝映	岩井ｺｽﾓ証券	藤原　重良	SOMPO ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
岸本　晃知	みずほ証券	前田　晃太	野村證券
古島　次郎	大和証券	増野　大作	野村證券
榮　哲史	野村證券	三浦　勇介	大和証券
阪口　和輝	大和証券	三木　成人	野村證券
醒井　周太	ﾆｯｾｲｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	宮崎　裕次	三菱 UFJ ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ
重岡　絵美里	大和証券	村上　秀樹	丸三証券
清水　康之	QUICK	柳本　和紀	三菱 UFJ 信託銀行
杉浦　徹	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	山科　拓	ﾏｯｺｰﾘｰｷｬﾋﾟﾀﾙ証券会社
須藤　翼	大和ｱｾｯﾄﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	渡辺　真理子	UBS 証券

(注)　上記各アナリストの評価実施企業は、各人それぞれ異なることに留意。